

交通安全計画用語解説

行	用 語	内 容
あ 行	ITSスポット	交通安全、渋滞対策、環境対策などを目的とし、人と車と道路とを情報で結ぶ次世代の道路で、カーナビ・ETCを進化させて一体化し、オールインワンで多様なサービスに対応する通信手段として道路に設置されており、広域な道路交通情報や画像を提供できるシステムのこと。
	あんしん歩行エリア	生活道路での歩行者・自転車の安全対策の一つ。エリア面積は概ね1km ² 、人口集中地区(DID地区)に該当し、歩行者・自転車事故密度の高い地区を選定する。
	インシデント	事故に至る可能性があり、なおかつ、実際には事故につながらなかった潜在的事例のこと。
	運輸安全マネジメント評価	運輸事業者が社内一丸となった安全管理体制を構築・改善し、国がその実施状況を評価すること。このことにより、運輸事業者の安全風土の構築、安全意識の浸透を図る。
	エスコートゾーン	道路を横断する視覚障害のある人に対し、安全性及び利便性を向上させるために、横断歩道上に設置する突起体の列のこと。
	大型遮断装置	通常の2倍程度の太さにした棒を使用し、遮断かんの視認性向上を図ったもののこと。
	オーバーハング型警報装置	踏切の存在を目立たせ、遠くからでも認識できるように、踏切の上方に取り付けた警報装置のこと。
か 行	幹線道路	道路網の基幹となる道路のこと。
	救急医療機関	田辺市内では、医療法人洗心会玉置病院、医療法人研医会田辺中央病院、独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター、社会保険紀南病院が指定されている。
	救急医療週間	救急の日を含む1週間を救急医療週間と定め、各地において救急医療の適正利用の啓発や応急手当の講習会等を中心とした救急に関する様々な行事が実施される期間のこと。
	救急の日	消防庁で、救急業務及び救急医療に対して国民の理解と認識を深め、救急医療関係者の意識の高揚を図ることを目的に定められた日のこと。
	緊急開口部	高速道路等の流出入制限された道路において、消防活動、救急病院との連絡、交通事故の処理など緊急用として、外部に連絡・出入りすることができる構造の開口部のこと。
	緊急通報システム(HEL P)	新交通管理システム(UTMS)の中の一つのサブシステムであり、運転中に緊急事態が発生した場合、このシステムが作動(手動・自動)することにより現在地が早期に把握でき、緊急車両の現場到着を短縮するためのシステムのこと。
	区画道路	沿線宅地のための交通、供給処理施設の収容、日照、通風等のための道路のこと。
	クランク	車両速度を抑制する道路構造の一つで、直角の狭いカーブが二つ交互に繋がっている道路形状のこと。
	型式指定制度	現車によるブレーキ試験等の基準適合性審査と品質管理(均一性)の審査の結果、指定された型式の自動車について、新規検査時の現車掲示が省略される制度のこと。主に同一モデルが大量生産される乗用車に利用される。
	現場急行支援システム(FAST)	新交通管理システム(UTMS)の中の一つのサブシステムであり、緊急車両を優先的に走行させるために、信号制御等を行うとともに緊急走行に起因する交通事故を防止するシステムのこと。
	高規格幹線道路	全国的な自動車交通網を形成する自動車専用道路のこと。
	高機能舗装	雨天時のスリップ事故等を防ぐため、路面の排水性を向上させた舗装のこと。従来の舗装より空隙が多いため、排水機能に加え、騒音の低減効果も有する。
	高視認性区画線	夜間や雨天時における視認性の確保や、居眠りや脇見による車線逸脱の防止のために、ライン上にリブ部(突起)を設置したり、通常よりも再帰反射効果の高いビーズを使用したりする区画線、道路標示のこと。
	高視認性ポストコーン	超高反射塗装等することにより視認性を高めたポスト形状のコーンのこと。
	交通結節点	利用者が複数の交通機関を利用する場合に、交通機関相互の乗り換え・乗り継ぎを行う施設のこと。
	交通需要マネジメント(TDM)	Transportation Demand Managementの頭文字をとったもので、車の利用者の交通行動の変更を促すことにより、都市や地域レベルの道路交通混雑を緩和する手法のこと。円滑な交通流の実現により、環境の改善、地域の活性化が図られるため、全国各地で、TDMへの取り組みが始まっている。
	高度道路交通システム(ITS)	Intelligent Transport Systemsの頭文字をとったもので、最先端の情報通信技術を用いて人と道路と車両とを情報でネットワークすることにより、交通事故、渋滞などといった道路交通問題の解決を目的に構築する新しい交通システムのこと。

交通安全計画用語解説

行	用 語	内 容
さ 行	災害医療チーム(DMAT)	Disaster Medical Assistance Team の頭文字で、医師、看護師、業務調整員(救急救命士、薬剤師、放射線技師、事務員等)で構成され、大規模災害や事故などの現場に急性期(おおむね48時間以内)に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームのこと。
	シームレスな	「継ぎ目のない」という意味。複数の交通手段の接続性を改良すること。
	視距	ドライバーが道路上で見通すことのできる距離のこと。
さ 行	自動起動型信号機電源付加装置	地震や災害を含めた停電時に主要交差点の交通信号機を滅灯させないために自動的に発電機が作動し電源を確保する装置のこと。
	自動車アセスメント情報	現在市販されている自動車の性能について、さまざまな試験により評価を行った結果のこと。公表することで、車を選ぶ際の判断材料として活用することができる。
	自発光式視線誘導標	道路の側方や中央などに沿って、路端や道路線形などを明示して、昼夜間における車両運転者の視線誘導を行うために設置する、自発光式施設の総称のこと。
	進行方向別通行区分	交差点手前で進行する方向(直進、左折及び右折)に関する通行区分を指定することにより交通流の秩序化を図り、もって交通の安全と円滑を図る規制のこと。
	スクリーニング	ふるいわけをすること。
	生活道路	通学、買い物などの日常生活に使われる道路のこと。生活関連道路の略である。
	セーフティアドバイザー	安全について助言する人のこと。
	全方向型踏切警報灯	1台で全方向から警報灯の視認ができる踏切警報灯のこと。
た 行	速度制限機能付きATS	曲線等の線路の条件に応じて列車の速度を自動的に、当該速度制限箇所の手前までに安全上支障のない速度まで減速、又は停止させる装置のこと。
	中央分離帯強化型防護さく	標準型の中央分離帯防護さくに比べ、支柱間隔を短く、補強梁を多く配置し、衝撃に強くしたもののこと。
	道路交通情報通信システム(VICS)	新交通管理システム(UTMS)の中の一つのサブシステムであり、カーナビゲーションに渋滞等の交通情報を提供し、交通流の分散化、旅行時間の短縮等運転者の利便性の向上を図るシステムのこと。
は 行	道路ふれあい月間	各種運動を通じて、道路を利用している国民に改めて道路とふれあい、道路の役割及び重要性を再認識してもらい、さらには道路をいつくしむという道路愛護活動の推進及び道路の正しい利用の啓発を図り、道路を常に広く、美しく、安全に利用する気運を高めることを目的に毎年8月に実施しているもの。
	バリアフリー新法	「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」のことで、主務大臣による基本方針並びに旅客施設、建築物等の構造及び設備の基準の策定のほか、市町村が定める重点整備地区において、高齢者、障害者等の計画段階からの参加を得て、旅客施設、建築物等及びこれらの間の経路の一体的な整備を推進するための措置等を定めたもの。
	ハンプ	車両速度を抑制する道路構造の一つで、車道部分の一部を意図的に盛り上げて舗装した箇所のこと。物理的にスピードを落とさせる方法である。
	光ビーコン	走行する車両を感知して交通量や占有率を測定する車両感知機能と、車載機と双方向通信を行うことにより情報の送受信を行う情報収集提供機能を有する高度な情報通信(IT)装置のこと。
	プロファイル化	交通管制センターの中央装置から制御する従来のマクロ信号制御では、交通流の変動から制御実行に至るまでの時間差によって「制御遅れ」が生じるが、プロファイル信号制御は、個々の信号交差点周辺の交通流を予測することで、「制御遅れ」を解消し、リアルタイムに適応した信号待ち時間を最少とするミクロ信号制御を行うこと。
	歩行者等支援情報通信システム(PICS)	新交通管理システム(UTMS)の中の一つのサブシステムであり、視覚障害のある人の所有する白杖を検知して、交差点名や信号の状態を音声で案内する他、歩行者青信号の時間を延長するシステムのこと。
	凹凸型路面標示	暫定二車線区間における対向車線飛出し事故防止対策として、路面に凹部、凸部を施し、自動車がその部分を走行すると振動で知らせる標示のこと。
ま 行	道の相談室	幅広く道に関する相談を受け付け、通報・苦情・質問・問い合わせ・意見等に対応する窓口のこと。
	無電柱化に係るガイドライン	道路の地下空間を活用して、電力線や通信線などをまとめて収容する電線共同溝などの整備による電線類地中化や、表通りから見えないように配線する裏配線などにより道路から電柱をなくす無電柱化事業を推進するための指針のこと。